

あいであ & アイデア

# 和牛の分娩小屋にウェブカメラ 見守りを楽に

宮崎 西諸県農業共済組合 米倉 浩

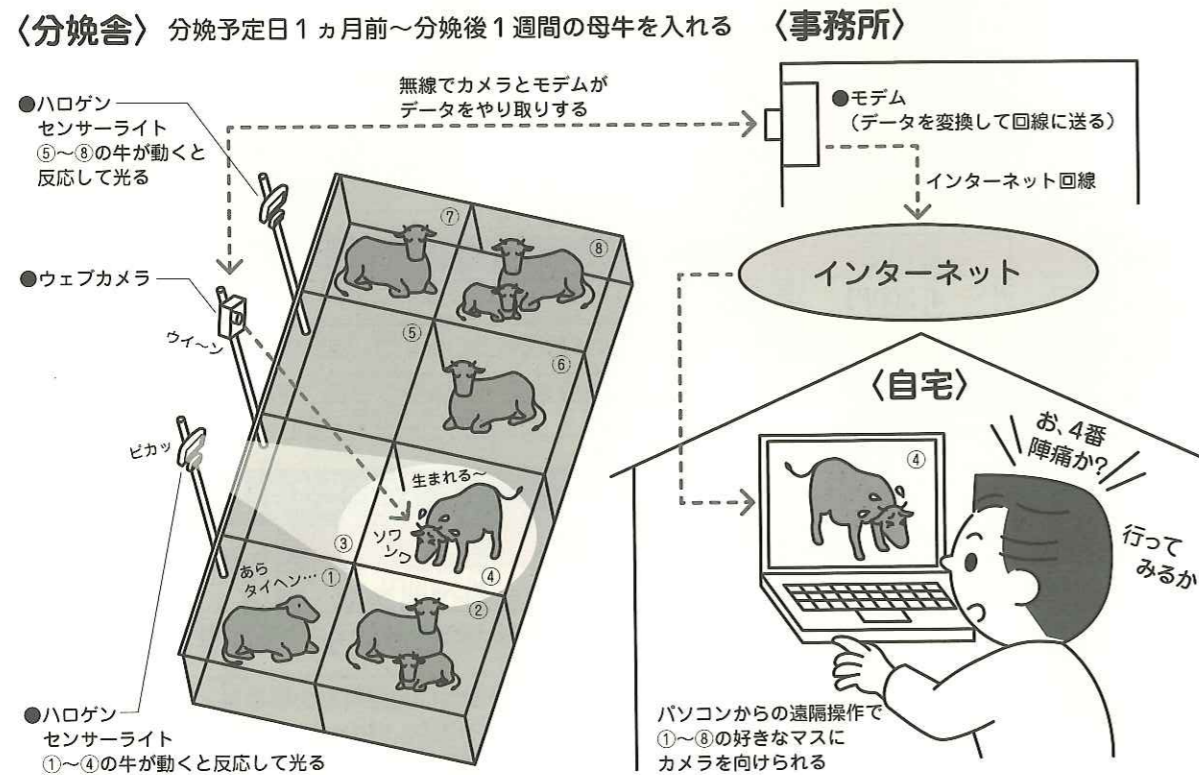
## はじめに

宮崎県えびの市高野の園田武文さん(65)＝繁殖和牛47頭、肥育素牛145頭＝は、ウェブカメラとセンサーライトを組み合わせた分娩〈ぶんべん〉監視装置を用いて、牛のお産確認や健康状態の把握に役立て、労力軽減を実現しています。

牛の様子を自宅のパソコンや携帯電話からチェックできるよう、分娩小屋に監視カメラの設置を検討しました。しかし、牛専用の分娩監視装置は20万円以上するため、市販のウェブカメラ等を流用することで低価格化に取り組み、6万円弱(当時)で製作することができました。

## 分娩見守りシステムのポイント

必要な機器類は①牛の様子を撮影するためのウェブカメラ、②牛の動きを察知してスポットライトをあてるためのセンサー付きライト、③ウェブカメラの映像をインターネットに送るための無線LAN機器とモデム、④動画を閲覧するためのパソコンと携帯電話です。



(図) 分娩見守りシステム概念図

## システムの概要

- ①ウェブカメラは、自動的に首振りをして、畜舎全体を広く撮影する機能が必要です。また、無線LAN等を通じて映像をインターネットに送ることができる必要があります。防犯用の監視カメラは、このような用途に転用できるものがありますので、本システムでは、約3万円(当時)のカメラを使用しました。
- ②センサー付きの強力なハロゲンライトを分娩小屋の左右2ヵ所に設置するのが、このシステムの大きなポイントで、牛が動くとき作動して、その周辺が明るくなる仕組みです。これで、注目すべき牛がはっきりするので、見落としや見間違いを減らすことができます。
- ③ウェブカメラの映像は、無線LANからと電話回線を通じてインターネットに送信します。動画の転送ができるスピードの機器が必要です。
- ④パソコンは、動画サイトを見るためのブラウザがあれば、専用ソフトは不要です。また、動画サイトを見ることのできる携帯電話があれば、外出先でも見守ることができます。



(写真1) 可動式ウェブカメラ



(写真2) センサー付きライト

## システムの効果と普及

園田さんは「お産予定日が近い牛がいる時期は、夜に家でパソコンの画面を3時間おきにチェックし、牛にお産の兆候があると、すぐに牛舎に向かいます。体力的にも精神的にも楽になりました」と効果を話します。

また、このシステムに関心を持った農家の方からの問い合わせや、実際に自分で取り組みを始める農家も出てきており、今後の普及が期待されます。



(写真3) 画像を確認する園田さん

(筆者：NOSAI西諸(西諸県農業共済組合) 総務企画課)